

特発性基底核石灰化症（IBGC）患者の頭痛に関する疫学調査

研究分担者： 犬塚 貴（岐阜大学大学院医学系研究科神経内科・老年学分野）
研究協力者： 栗田尚佳、位田雅俊、保住 功（岐阜薬科大学大学院薬物治療学）
平田幸一（獨協医科大学神経内科）

研究要旨

IBGC における診断ガイドライン確立・策定のための検討項目の 1 つとして、我々は頭痛に注目し、IBGC 患者に対する全国的な頭痛のアンケート調査を実施した。本調査では、IBGC のにおける頭痛症状の詳細な調査を行うことで、脳内石灰化の程度などの IBGC 症状と頭痛の関連性を見出し、診療ガイドライン確立・策定に役立てる。アンケートは平成 26 年 12 月中旬に送付し、平成 27 年 1 月 31 日現在において、アンケート回収率は 38.4%であった（送付総数：178 通、返信数：66 通、宛名不明：6 通）。返信があった 66 例のうち、30%の症例（20 例）で頭痛があった。頭痛があった 20 症例のうち、性別割合は男性に比べ、女性の方が約 2 倍多かった。頭痛に関する性状について、アンケートの結果を基に集計したところ、現時点での集計結果からは、全体では前兆なしの片頭痛に近い傾向が認められた。しかしながら、引き続き症例を集め、集計を進める必要がある。

A. 研究目的

IBGC における診断ガイドライン確立・策定のための検討項目の 1 つとして、我々は頭痛に注目し、IBGC 患者に対する全国的な頭痛のアンケート調査を実施した。本調査では、IBGC のにおける頭痛症状の詳細な調査を行うことで、脳内石灰化の程度などの IBGC 症状と頭痛の関連性を見出し、診療ガイドライン確立・策定に役立てる。

B. 研究方法

頭痛に関する質問票を IBGC 患者（178 症例）に対し各医療機関を介して郵送した（総数：884 通）。質問票の質問項目ごとに、集計し頭痛の性状について解析する。研究計画、アンケート調査は、岐阜大学および岐阜薬科大学の倫理審査委員会の承認を受けた上で実施した。

(倫理面への配慮)

アンケート調査および研究計画は岐阜大学および岐阜薬科大学の倫理審査委員会の承認を受けた上で実施した。

C. 研究結果

アンケートは平成 26 年 12 月中旬に送付し、平成 27 年 1 月 31 日現在において、アンケート回収率は 38.4%であった（送付総数：178 通、返信数：66 通、宛名不明：6 通）。返信があった 66 例のうち、30%の症例（20 例）で頭痛があった。頭痛があった 20 症例のうち、性別割合は男性に比べ、女性の方が約 2 倍多かった。頭痛に関する性状について、アンケートの結果を基に集計したところ、現時点では、全体では前兆なしの片頭痛に近い傾向が認められた。

D. 考察

現時点では、まだアンケート調査は継続中である。したがって今回の報告は途中経過報告である。今後、さらに症例数が集まれば、IBGC における頭痛の性状を把握することができると考えられる。

E. 結論

現時点での集計結果からは、全体では前兆なしの片頭痛に近い傾向が認められたが、明確な結論を導き出すには、引き続き症例数を集め、集計を進める必要がある。

G. 研究発表

1. 論文発表

なし(準備中)

2. 学会発表

(学会は未発表)

- ・第5回特発性脳内石灰化症班会議(平成27年2月7日、岐阜市)にて報告した。

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし